

3 授業評価アンケート

1) 2015 年度授業評価アンケートの概要

(1) 講義・演習

①結果（資料1 参照）

回収率は、86.4%であった。授業の欠席回数については、なしが 3,911 人 90.3%で、1 回が 329 人 7.6%、2 回 59 人 1.4%、3 回 31 人 0.7%であった。

授業以外の学習時間は、0 時間 1,583 人、次いで 1 時間未満 1,542 人、1 時間以上 2 時間未満が 670 人であった。2 時間以上 3 時間未満は 251 人、3 時間以上は 300 人であった。欠席回数の無回答 246 人、授業時間以外の学習時間の無回答、230 人だった。

項目全体の平均ポイントは、4.14（5 点満点）で、授業の取り組みについては「この授業に真面目に意欲的に取り組んだ」4.18、「授業中私語なく、集中できた」は 4.16 であった。

授業から得られたことは「自分にとって新しい考え方、発想がもてた」4.15、「授業で扱った専門分野に関する基本的な知識が得られた」は 4.20 であった。しかし、「自分で調べ考える姿勢がもてた」は 4.02、「この授業の学習目標は達成できた」も 4.02 であった。「この授業においてシラバスは役に立った」が、3.87 であり、「この授業の学習目標は達成できた」も 4.02 であった。

総合評価は、「この授業はわかりやすい授業だった」4.16、「この授業を受けて満足した」4.17 であった。

②評価

2014 年度カリキュラム委員会で、授業評価アンケート内容や回収方法を検討し、クラス委員の学生に協力を得た結果、回収率は 86.4%であり、昨年度より高くなっていた。

授業以外の学習時間に関して、次年度は課題以外の学習時間も入れて回答するよう説明する。また、欠席回数に関しても無回答が無いように説明する。

教員から与えられた知識は受けとめているが、自ら学ぶ意識は高いとはいえない状況なため、教員には、知識の提供だけでなく学生が自己の課題を見出しながら考えていけるような授業の組み立て方が求められる。

また、シラバスを活用し、科目の目標や課題を意識しながら学習できていない学生の状況が明らかになったので、教員は意図的にシラバスを活用しながら授業を進めることも必要である。

(2) 実習

①結果（資料2 参照）

回収率は、98.4%であった。授業の欠席回数については、なしが 737 人で、1 日が 29 人、2 日 8 人、3 日以上 6 人で、無回答が 11 人であった。

項目全体の平均ポイントは、4.61（5 点満点）であり、「自分にとって新しい考え方、発想が持てた」が 4.75 と高く、次いで「この実習は真面目に意欲的に取り組んだ」が 4.73 であった。臨床指導者に関しては「臨床指導者の指導は理解しやすかった」が 4.70、「臨床指導者は話しやすい雰

囲気を作っていた」が 4.66、「臨床指導者、患者（利用者）・家族・病棟（施設）スタッフと学生の関係に配慮していた」は 4.70 であった。教員に関しては「教員の指導は理解しやすかった」4.59、「教員は話しやすい雰囲気を作っていた」4.58 であった。

「この実習目的・目標は十分達成できた」4.41 であり、「この実習において実習要項は役に立った」が 4.50 であった。

②評価

回収率は、98.4%であり、講義時・演習と同様、回収を学生の協力を得た結果と考える。

3年生になると様々な領域の実習が次々に進んでいく中で、学生が実習目的・目標を十分把握できずに実習していることが伺えるため、教員は意図的に実習要項を活用していくことを意識づける必要がある。

臨床指導者に対する評価は平均より高く、恵まれた実習環境の中で実習を行うことができているので、今後も教員は実習目標に沿って臨床指導者と連携しながら実習をすすめていく。

(3) 今後の改善・充実に向けて

授業評価アンケートの結果からは、授業には必ず出席して与えられた知識を受け止めている学生像が見えてきた。そのため、自ら学ぶ姿勢が持てるよう意識づけ、教員も授業内容や方法の工夫が必要である。特に、単位制の教育では、予習復習時間も含めて授業時間数となっていることを学生に周知すると同時に、教員側も講義時間毎に予習や復習する内容を示すようにする。

シラバスの活用が必ずしも十分活用されていない状況もあるので、学習の到達目標、それに向けての課題、評価等についてシラバスを随時確認しながら学習をすすめていけるような改善が必要である。教員も学習途上で適宜シラバスを提示しながら活用を促していく必要がある。実習要項も同様に考え、学生にとって学習の指針となるよう意識づけて活用していく必要がある。